

氏名	和田 健
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 3480 号
学位授与の日付	平成 12 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Recurrent cases of corticosteroid-induced mood disorder -clinical characteristics and treatment- (ステロイド誘発性気分障害の再発例に関する臨床的検討)
論文審査委員	教授 阿部 康二 教授 小川 紀雄 教授 岡 鉄次

学位論文内容の要旨

ステロイド誘発性気分障害の中で DSM-IV の診断基準を満たし、かつ反復性の経過をとった 9 例について臨床的に検討した。亜急性に躁病相で発症し、躁病相優位の双極性経過をとる例が多く、精神病症状を伴いやすいことが特徴で、9 例のうち 7 例ではステロイドの用量と関係なく、心因の関与などにより病相が出現していた。個々の病相の転帰は比較的良好であった。ステロイドパルス療法による急速な躁病相の誘発・増悪が 5 例中 4 例で観察され、その適用には注意を要すると考えられた。基礎疾患を考慮した気分安定薬、病態に応じた抗精神病薬、三環系を含む抗うつ薬の使用が有効であった。これらのことからステロイド投与による反復性の気分障害は、内因性の気分障害や既報のステロイド精神病とは異なる特徴を持った症候群である可能性が高い。またこの症候群の検討を通じて得られる知見は、内因性気分障害の病態解明にも寄与すると考えられる。

論文審査結果の要旨

本研究は、反復性ステロイド誘発性気分障害患者 9 例について、発症年齢や、ステロイド投与となった基礎疾患、そう状態や鬱状態、ステロイド投与から精神症状発現までの時間、症状発現回数などの臨床的特徴について検討したものである。症状発現は亜急性にそう病相で発症し、そう病相優位の双極性経過をとるものも多く、精神病症状を伴いやすいことを明らかにした。個々の病相の転帰は比較的良好であり、9 例中 7 例はステロイド用量と無関係であった。治療としては気分安定薬、抗精神病薬、三環系抗鬱薬などが有効であった。

このように本研究は、反復性ステロイド誘発性気分障害について、臨床的特徴や治療薬の選択について明らかにした価値ある臨床的業績と認められる。よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。